

今年もあとふた月を残すばかり、まもなく冬支度ですね。空気が乾燥して、風邪をひきやすい季節となりました。今回は 10月号①医師と患者(ろう者)の会話・診察室「風邪」の動画を見るときポイントを解説します。

医師: 今日はどうしましたか? (1)

患者: 風邪を引いたようです。

医師: どのような症状(2)がありますか?

患者: 咳が止まりません、鼻水も止まりません。

医師: 熱はありますか?

患者: 出かけに計ったら 38 度ありました。

今は手足の筋肉が痛いし…寒気があります。

医師: 吐き気はありませんか? (3)

患者: 吐き気はないですが、食欲がありません。

医師: 2、3 日は 安静にした方が(5)いいですね。お仕事は休んだ方がいいです。

患者: わかりました

医師: 今日咳止めの薬と、抗生剤、鼻水を止める薬をお出します。

熱が高いので解熱剤もお出します。熱が高い時に (4)飲んでください。

(「医療通訳の実践 多文化共生センターきょうと」より)



(1)「体/何/?」具体的に「体」と表現します。

口形と口元の力加減に注視してシャドウイングの練習をしてみましょう。

(2)「例 / 体 / 様子 / 例 / 何?」「例えば?」と問いかけています。

(3)日本語をそのまま手話に置き換えないように気をつけましょう。

日本語では質問をやんわりと伝えるために、「～せんか?」と言います。

「ありませんか」→「ありますか」と置き換えて手話表現をしています。

(4)日本語 (解熱剤は)、熱が高い時に 飲んでください

手話 解熱剤/時 熱 / 高い / 時 / だけ 飲む / お願い

「～だけ」と、波線部分を付け加えることで、解熱剤は他の 3 つの薬とは服用方法が違うことをしっかりと伝えることができます。「時」の口形は「場合」と読み取れましたか?

(5)追加ポイント 日本語では命令口調にならないように「～方が」という言い回しがあります。手話ではそのニュアンスはどのように伝えているのでしょうか?

また、手話の強さ、速さで意味あいは変化します。

その時の意味にあわせて強弱や速さを意識して表現してみましょう。